

# A-PARTNERS

足立区 NPO 情報紙  
つくる。つながる。ひろがる。

No.39  
2022年9月15日発行

多  
世  
代  
交  
流



み  
ん  
な  
の  
い  
き  
き

## 特集

子どもたちや高齢者の居場所づくり  
ベーゴマがつなぐ多世代のふれあい  
特定非営利活動法人 ベーゴマ普及協会

## トピック

- 聞きたいあなただけのストーリー 五色桜の会
- センターピックアップ NPO森林インストラクター会 フォレスト
- 頼って!おいでよ!子育ておまかせ処
  - がるまる
  - 認定非営利活動法人 カタリバ
- コラム スタッフのつぶやき

編集・発行 2022年9月15日 足立区 NPO 活動支援センター  
〒123-0851 足立区梅田7-13-1 (梅田図書館1F) TEL:03-3840-2331 FAX:03-3840-2333 担当所轄: 足立区協働・協創推進課 協働・協創推進課担当 TEL:03-3880-5020

足立区



子どもの居場所 子育て支援 安心して暮らせる環境や仕組みづくり

頼って!おいでよ! 子育ておまかせ処



### がるまる

主な活動場所: 足立区北西部  
お問い合わせ: garumaru2021@gmail.com

つながる・ひろまる・そして、やってみる

#### 活動内容

子育て世帯を中心に食などの支援活動を行う。活動内容: こども食堂、フードパントリーなどの開催・地域と連携したマルシェの開催・他のこども支援団体との連携・CSR 活動を行なう企業との連携など。

#### メッセージ

がるまるサポーターと、  
がるまるガールズが、明るく・楽しく・  
無理しないをモットーに活動しています。  
ぜひ、のぞきにきてください。



### 認定非営利活動法人 カタリバ

主な活動場所: 足立区全域  
お問い合わせ: webmaster\_pp@peace-project.net

誰でも来れる体験イベントもあるピース食堂

#### 活動内容

区の委託事業として梅島と竹ノ塚で中高生の居場所を兼ねた学習支援施設を運営。大学生スタッフによる学習のサポートや地域の方々による栄養満点の食事を提供中。地域団体の皆さんと交流会・勉強会も実施しています。

#### メッセージ

中高生への学習支援や食事支援をサポートしてくれるボランティアさんを随時募集中です!  
ご応募はQRコードからお願いします!



ボランティアさん募集中



「くわしく聞きたい!」  
「自分も何かなめたい!」  
と思ったら...

地域にどんな活動があるのかな?  
私にも何かできるかな?  
もっといろいろ知りたい!!  
と思った方は、  
足立区NPO活動支援センターに  
アクセスしましょう。

あだち  
協働  
パートナー  
サイト

Twitter

Facebook



〒123-0851  
東京都足立区梅田七丁目13番1号  
TEL:03-3840-2331  
adachi-npo-center@machikatsu.co.jp



スタッフのつぶやき

未だ続くコロナの脅威に、私たちの生活や環境は変化を余儀なくされています。

そしてコロナ禍は、本当に必要なもの、真に大切なものを考えさせてくれました。変化に向き合う私たちは、自身の知らぬうちに順応しているのかもしれない。

NPO団体の活動にも様々な変化が見られます。大切にしてきた交流の場やコミュニケーションがとりずらい中、各団体がオンラインの活用をはじめ、様々な工夫をして活動されています。

この状況が一日も早く解消され、団体活動が不自由なく行える日常が戻ってくることを、願わずにはられません。

(センタースタッフ)

\*\*\* 足立区 NPO 活動支援センター開館日・開館時間 \*\*\*

開館日: (火)~(日)  
開館時間: 午前9時~午後9時30分 (月末の平日は午後5時まで)  
休館日: (月)、(祝)、年末年始



## 特集 子どもたちや高齢者の居場所づくり

昼下がりの公園、セミの鳴き声に混じって「チッチーノチ!」という元気な子どもたちの声が聞こえてきます。毎週日曜日の午後、西新井さかえ公園で「ベーゴマ教室」を開催しているベーゴマ普及協会の代表であり、指導者の一人でもある有澤次男さんにお話を伺いました。

## 世代を超えたコミュニケーション！ ベーゴマがつなぐ多世代のふれあい

### 特定非営利活動法人 ベーゴマ普及協会

#### 幼少期の遊びを懐かしむことから始まった活動

「出身は上野なんですよ」と語り始めた有澤さん。「私たちが小学生だった当時流行っていた遊びといえば、ビー玉、メンコ、虫取り、そしてベーゴマでした。放課後や休日、不忍池の弁天堂前などにみんな集まって、紙芝居屋が来る夕方頃までベーゴマ遊びをしていましたね。」と懐かしそうに話す有澤さんの話を聞いていると、アニメや漫画などで見聞きしたことのある昭和の情景が目の前に浮かび上がってきました。

有澤さんは若い頃、トップセールスマンとして全国を忙しく回っていたとのこと。退職した後は地元に戻り、のんびり余生を楽しむべく、旧友たちと商店街の居酒屋で、お酒を飲むことも多かったそうです。そんなある日、ただ飲んでいるだけなんてつまらないから…と持ち出したのが、幼少期によく遊んでいたベーゴマ。何十年も手にしていなかったものの、やり出すと手が覚えていくもので、みんな懐かしがって楽しんだと言います。それからは、知り合いのいる神社仏閣の境内や商店街の一角などで「昔懐かしい遊びをしてみよう」と始めたのが、この活動のきっかけだそうです。

当初は高齢者同士の交流の場、孤立防止対策として開始した活動でしたが、やがてその活動が教育機関や行政の目に留まり、高齢者が指導員となって、子どもたちでも楽しめるような放課後活動、地域活動へと発展していきました。

#### ベーゴマの由来と現代の楽しみ方

「ベーゴマ」と聞くと「米（べい）コマ」と思っている方も多いようですが、歴とした日本発祥のもの。

ベーゴマは、「バイ貝」と呼ばれる5センチほどの巻貝を半分ほどの大きさにし、その隙間に粘土や蠟を流し入れた「バイゴマ」を、回して競い合わせる遊びでした。その歴史は6〜7世紀頃からだといわれています。明治以降には現在とほぼ変わらない、鉄製のベーゴマが普及していきました。

昔は駄菓子屋などにありましたが、最近は見つけるのも難しく、オリジナルのベーゴマの販売とメンテナンスなども教室で行っています。

ベーゴマには「勝」「虎」といった漢字が刻印されたものや、動物や恐竜、花をモチーフにした可愛ら



「チッチーノチ!」威勢のよい掛け声とともにベーゴマが「床」に飛び出します。

#### コロナ禍の活動

#### コーラスグループから生まれた絆 五色桜の会

明治19年（1886年）、荒川堤で起きた河川氾濫の補修工事をする際、江戸の大名屋敷に由来した八重のサトザクラ78種3千225本が約6キロメートルに渡り植樹され、当時の新聞に「五色に彩られ…」と紹介されたことに由来している五色桜。その歴史を後世に広く伝えていこうと区民向けの学習会を開催したり、実行委員としてマラソン大会に携わったりしているのが、特定非営利活動法人五色桜の会です。

#### 趣味で集まった仲間たち

当初は趣味のコーラスで集まった仲間たちですが、足立区を代表する五色桜について関心を持ち、普及活動をしていき

たいと前理事長の下、2007年に発足。2009年からは法人団体として活動をはじめました。職業も生活環境も異なる方たち、ずっと伸びた背筋、明るく元気な口調からは年齢を感じさせず、一人ひとりが生き生きとしているのが印象的。また、演奏会に挑む思いや健康管理への意識は、このコロナ禍での生活にも活かされたといえます。

#### 待ちに待った大会再開

コロナ禍による活動の自粛、中止を乗り越え、今年2022年4月には3年ぶりに第10回となる「あだち五色桜マラソン」が開催されました。荒川河川敷、江北橋緑地で行われるこの大会では、18歳以上の学生・一般人向けのハーフマラソンをはじめ、1キロメートルの単距離から走れるマ

ラソン、一輪車に乗って行う競技のほか、小学校低学年や親子で参加できる種目もあり、年齢層が幅広いのも魅力の一つ。2大会連続の休止はあったものの、今回の大会では1,200人もの参加者が集まり、桜並木沿いでのランを楽しみました。「八重桜なので花びらの枚数も多く、形が美しいのはもちろん、それらを試行錯誤し、手入れしてくれる職人さんの努力も感じてほしい。130年以上続くこの五色桜の歴史を、私たちが強く次世代に伝えていけるよう活動していきたい」と、代表の井口さんは語ってくれました。



しいものなど、種々様々。中には鏡面のように磨かれたベーゴマや金色に塗装されたベーゴマ、「デコベーゴマ」と呼ばれるキラキラした塗料やシールなどで飾られたものもあります。特に「デコベーゴマ」は女の子に人気だそうです。この日も何人もの女の子が参加していました。

また、視力が弱い子どもで楽しめるように工夫されたのが試作品の「光るベーゴマ」です。「光るベーゴマ」は、通常の鉄製ベーゴマの中心部をくり抜き、その部分にボタン電池を使用した電源装置とLEDライトを取り付け、プラスチックの蓋がされています。「子どもたちのベーゴマの色を分けておけば、視力の弱い子どもと一緒に遊べます。障がいがあるから一緒に遊べないということをさせたくないのです」と、有澤さんは話してくださいました。



試作品の光るベーゴマ

#### 世代を越えて子どもたちを引きつけるもの

ベーゴマ教室には、兄弟と一緒に来る3歳の子から、社会人の男性までと、幅広い年齢層の方が参加されています。また、様々な理由により学校へ通うことが難しい子どもが、親と一緒にベーゴマを楽しむこともあるそうです。有澤さんは、参加者が自然と挨拶をする仲になる様子や、教えられる側だった子どもがいつの間にか他の子どもに教えていたりする姿を見るたび、交流を通じて人が変化していく様子を感じるとおっしゃいます。

「昔遊び」と呼ばれ、昔の子どもも現代っ子も引き付けるベーゴマ。人とのつながりや懐かしさを求めにやってくる人たちのため、ほぼ毎週日曜日、いつもの公園でみんなを待っています。



様々な世代の交流が生まれます



特定非営利法人ベーゴマ普及協会  
<https://begoma.localinfo.jp/>

取材：ワタナベサヤカ（足立区NPO活動支援センター区民ライター）

#### 注目の活動

#### ヤンターピックアップ

#### 足立区の自然に触れ、植物の生態や歴史を知る NPO森林インストラクター会フォレスト

NPO森林インストラクター会フォレストの活動の柱の一つが、野外植物教室「あだち道草の会」です。足立区内や近郊の公園、植物園、河川敷、鎮守の森などの自然が多く残る場所を歩きながら、四季折々に変化する植物の生態や歴史・人との関わりなどをわかりやすく解説しています。

この半世紀ですっかり都市化した足立区ですが、残された自然の小さな変化を肌で感じながら草花と触れ合う、そんな道草をあなたも一緒に楽しませんか。

